

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105040号
法人名	錦江建設株式会社
事業所名	グループホーム ぶどうの木
訪問調査日	平成 21 年 12 月 10 日
評価確定日	平成 22 年 1 月 9 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670105040号		
法人名	錦江建設株式会社		
事業所名	グループホーム ぶどうの木		
所在地	鹿児島市中山町5286番地 (電話) 099-821-1011		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年12月10日	評価確定日	平成22年1月9日

【情報提供票より】 (平成21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 8日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 3人 非常勤 10人 常勤換算 5.0	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての ~ 1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (30,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 1,150 円		

(4) 利用者の概要 (11月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 79 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鹿児島徳洲会病院、西村内科消化器科、東開内内科クリニック、中山クリニック、わかもと歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ぶどうの房のように仲良く助け合って暮らしていけるように、との設立者の熱い思いで建てられた当ホームは、田園風景のある郊外の住宅地で、花や木・野菜畑に囲まれて、のんびりと暮らしている。入居者は歌や踊りが好きで、それぞれ得意分野を発揮しながら、いきいきと生活を楽しんでいる。職員は入居者の意向を細やかに把握しながら、チームワークでケアに取り組んでいる。地域の独居高齢者や住民と交流が図られ、地域住民と心暖まる交流を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価の改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	全職員で自己評価を実施し、ケアの振り返りを行い質の向上を目指している。外部評価の項目についても、話し合っ改善が行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	会議では、入居者の状況や活動内容等の報告を行っている。出された意見や要望は話し合いを持ち、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	面会時や運営推進会議・家族の来所時・敬老会・誕生会等で、意見や要望を出してもらうよう働きかけている。出された意見は、話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	自治会に加入し、地域行事に参加したり、ホームでの催し物に地域住民の参加がみられる。近所の独居高齢者との交流も大切にしており、しめ縄作りやぶどうの木の肥料やり、入居者散歩中に花や野菜、手作りの菓子をいただくなど、密に交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ぶどうの房のように、仲良く助け合って暮らしていけるように、との設立者の思いで、地域社会と共に入居者の満たされた暮らしの実現を支援するための理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングで理念を共有し、意見交換を行いながら実践にむけて、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域行事に参加したり、ホームでの催し物に地域住民の参加がみられる。近所の独居高齢者との交流も大切にしており、しめ縄作りやぶどうの木の肥料やり、入居者散歩中に花や野菜、手作りの菓子をいただくなど、密に交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価を実施し、ケアの振り返りを行い質の向上を目指している。外部評価の項目についても、話し合って改善が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者の状況や活動内容等の報告を行っている。出された意見や要望は話し合いを持ち、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と入居者の状況について、情報交換や相談を行いながら連携を図っている。市の介護相談員も受け入れ、入居者のサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、手紙やファックス・ホーム便り等で、入居者の暮らしぶりや健康状態・服薬情報を報告している。金銭管理については、領収書を添付し毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議・家族の来所時・敬老会・誕生会等で、意見や要望を出してもらうよう働きかけている。出された意見は話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視したケアを行っている。離職者が出た場合は早急に人員確保を行いながら、ベテラン職員がカバーするよう努めている。新入職者は入居者や家族に紹介し、入居者に早く馴染めるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、外部研修は交代で参加し、伝達講習を行っている。毎月の内部研修や谷山地区のグループホーム勉強会に参加し、資質の向上に向けた取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホームの勉強会で情報交換や勉強会を行ったり、近隣のグループホームと相互訪問する関係を築き、質の向上に向けた取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者にはホームを見学してもらったり、食事を一緒に食べるなど、馴染めるよう配慮している。不安の強い方には家族に2日間位、泊ってもらうなど、安心して入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有している。日常生活の中で入居者に教わる機会を作り、三味線や太鼓打ち・木の剪定等、本人の趣味や特技を活かし、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の同窓会と一緒に同行したり、「ぶどうの木」に住んでみて思うことを作文に書いてもらったり、希望や不安な事などをよく聴きながら、本人の意向を重視した支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞いたり、職員の意見を参考にしながら、個別に応じた具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画を見直している。状態変化時は随時の見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合いながら、本人の意向に沿った通院の支援・お寺詣り・歴史資料館見学・高齢者用プールに付き添うなど、多機能性を活かして柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医を受診する支援を行っている。また適切な医療が継続して受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のホーム側の対応について、ホームのできる事を入居時に説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は面会簿を個別のファイルにするなど、職員に個人情報の保護に関する指導を行っている。日頃より自尊心を大切にされた声かけや対応の仕方を職員に指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望や体調を考慮しながら、食事・入浴・散歩など、本人のペースに合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々のレベルに合わせて、野菜の下ごしらえ・調理・配膳・片付けなど、職員と一緒にしながら、食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めているが、希望者には毎日入浴できる体制にある。入浴を拒む時は、対応を工夫しながら、入浴ができるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を考慮しながら、庭木の剪定・梅干し・キンカン漬け・歌・踊り・三味線など、個々の得意分野を発揮し、日々の生活を楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にはホーム周辺の散歩に出かけたり、みかん狩りやコスモス見学・ソーメン流し・外食を楽しむなど、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出時には、近所の住民に話し相手になってもらうなど協力をもらいながら、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をもらいながら、夜間想定避難訓練を含めた年2回の防災訓練を実施している。地域の協力を呼びかけている。備蓄も用意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量が毎日記録されている。管理者が栄養士の資格をもち、献立表のチェックをし、栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共有空間には、テーブルやソファが置かれ、思い思いの場所で過ごせるよう工夫している。玄関横にはぶどうの木や季節の花が植えられ、側にベンチが設置している。面会や宿泊ができる部屋も用意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビや仏壇・写真・布団・椅子などの馴染みの品が持ち込まれて、入居者は安心してゆったりと過ごしている。		

※  は、重点項目。

※